

2025 年 World Sailing Annual Conference 報告書

齋藤愛子

2025 年 WS 年次会議はアイルランドのダブリン郊外のダンレアリー (Dun Laoghaire) にて 11 月 3 日から 8 日の日程で開催された。WS の Governance Reform がなされて、最初の対面での会議となった。1 年を 4 期に分ける新しい流れで、すでに Council Meeting は 3 回、他の各委員会もオンラインで会議を開き、年半ばから実質機能はじめた Monday.com を使った Proposal (従来の Submission) システムにも慣れてきたところである。2025 年—28 年の期間で、私は Events Committee の Vice Chair を務めることになり、これまで 11 月の総会を目標に動いていたペースから一転し、3 か月に 1 度のカウンシル会議に合わせて事前に Proposal やレポートを提出し、その前に Events 委員会を開くことが必要になり、Events の 2 週間前には討議される内容をオンラインで掲載が必要というスケジュールを組むことが必要になった。これは、ほぼ毎月、何らかのオンライン会議があることになり、フルタイムに近いペースでの委員会活動が続いてきた。加えて、Events Committee の中には Working Group が 5 部門あり、委員長の Wolfgang と私はそれらの統括も含めて、多忙な日々が続いてきた。本期から WG には委員会メンバー外からも有識者を加えることができるようになり、Team Leaders & Coaches Commission やアスリート委員会からもメンバーが入り、委員会の専門知識が厚くなったこともあり、オンライン会議の数は増えた。この 1 年は、パリ五輪での反省から始まり、WS はその改善とパラセーリングのパラリンピック復活に力を注いできた。ここでは、自分がメンバーとして参加した委員会と傍聴した委員会について報告する。

Events Committee

先にカウンシルから承認されていたのは、2028 年ロス五輪の国枠、予選の計画とフォーマットの変更の一部である。IOC からは五輪への参加国数が 65 か国は高評価であったが、それ以外は特にメディアの評価が低く、そこを改善できなければブリスベンでは大幅に削減（競技なり参加枠なり）をする対象と告げられている。ロス五輪は競技日程を予選 3 日、決勝 1 日、予備日 1 日とこれまでよりも期間短縮をし、レース時間を短くして 1 日にできるレース数を増やす。競技会場も 2 か所に分かれることがすでに決まっている。

2028 年 7 月 16 日～20 日 Formula Kite 男女/ IQF 男女 Belmont Shore, Long Beach

7 月 23 日～28 日 ILCA 男女/49er 男/FX 女/470 混合、Nacra 混合 Port LA, San Pedro

ロングビーチの競技会場は 1984 年のロス五輪と同じ場所で、他の競技とエリアを共有するオリンピックパークに含まれる。Port LA は今夏 8 月に ILCA ユース大会が開催された San Pedro の Sail GP がベースにしたエリアが拠点となる。

残っているのは Final の Format で決勝日の部分である。WG では事前に 12 回、会議直前に現地で対面の WG を 3 回行い、案をまとめ、12 月の臨時カウンシルで決議となる。アスリート委員会からの強い意見と WG 案とで話し合いが続き、新たにまとめた案（下記、カウンシル資料）が承認されたら 1 月からテストを始め、2026 年 5 月に最終決定となる。

12月10日カウンシル資料

Modul 07 Organisation

Eventsu 委員会は 2032 年への Events Evaluation (見直し種目) として、Kite Men/Women, Mix Dinghy, Mix Multihull を決定しており、これら 4 種目は 2026 年に Events & Equipment の合同 WG により検討する。作業は Regulation 11 に沿って進められる。また、Calendar WG より提案された今後のスケジューリングや大会のランクの整理なども承認されたので、2026 年から実務へ進めていく。

Youth Events Committee

今会議の一番の争点は、現状の種目を維持すべきかどうか。WS のユースワールドは 70 か国の参加に支えられて 2025 年 12 月にポルトガルのビラモウラで開催される。現状の 11 種目でよいのか、過去のデータを収集し、分析を始めている。現状を見ることが重要と考えてメンバーが現地で大会を視察することを勧めた。大会は複数回での開催を可能とし、2026 年もポルトガル、2027-28 はカナリー諸島のラスパルマで、ともに 12 月の開催となる。

2026 年 10 月のユース五輪には Techno293 男女の 2 種目がセネガルのダカールのビーチにて、トライアスロン、ボートと一緒に競技を実施する。遠浅で何も施設がない場所なので、ビーチにベースを仮設する。エントリーは IOC の管轄で各國の NOC 経由で申請されている。20 名ずつの枠に対して倍以上の国から申込があり、今後 IOC が参加国を選出、決定する。WS ではアフリカでの発掘プログラムをスタートしており、すでに Techno 293 クラスを使ったトレーニング、コーチ育成、道具のサポートを行っている。

Team Leaders & Coaches Commission

2013 年から参画しているコミッショナリであるが、今期のメンバーは強豪国がそろっている。委員長の Nadine はドイツ、他のメンバーもそれぞれの国のリーダーを務めている現役なので、ニュートラルなのは自分とユースコーチの代表であるアルゼンチンの Ines の 2 名のみ。多くの WG へ加わる機会が増えたので、それが参加する WG の報告や今後の検討課題を話し合う貴重な時間となった。コミッショナリは委員会と異なり、WS の Board へ直接報告をするため、特に現在の副会長達はこのグループの意見を注視している。ロス五輪が成功しないとセーリングのオリンピック競技としての存続が危ないという事実を受け止め、改善策を導くための情報提供ができる体制を構築している。

副会長選挙

5 人が立候補し、Sophia Papamichalopoulos (CYP) と Corinne Migraine (FRA) の 2 名が当選。Sophia は IOC のアスリート委員会でコベントリー IOC 会長と同僚であったこと、また IOC に所属する IF の中で最年少の副会長が誕生した。今後の WS と IOC の関係構築に大きなプラスと考えられる。Corinne はオフショアのベテランで、WS がディンギーやオリンピックだけでなく、オフショアレースとも関係強化していく意向に沿っている。組織力で動いたフランス、IOC を軸に選挙を展開したソフィア、見事な手腕だったと思う。自分が落選した原因は現状の委員会活動で手一杯になったことと、その役割を果

たすことが今副会長になるよりも重要ということで、受け取ったメッセージは、政治的な問題に巻き込まれず LA 五輪を成功に導くこと。選挙の後に、Events 委員会のメンバー達から、当選したら来年からの委員会はどうなるのかって冷や冷やしたという言葉を聞き、自分も落胆より安堵を感じた。選挙活動を通じて得た新たなる人脈は貴重であり、今後の活動にプラスにしていきたい。

傍聴した会議、報告等

WS CEO/Office Update

Olympic Classes Committee

Equipment Committee

World Sailing Offshore Events Organizers Forum

General Assembly

Council Meeting 1 & 2

カウンシル会議で、日本はグループ J に所属する。以前は大谷さんが代表で、グループの意見を聞いて参加していたと思うが、今回、グループ J から Council 1 にはリージャーが参加していたが、Council 2 には名札があるものの、誰も参加していなかった。Council は Alternate というシステムがあり、代理で参加することができる。グループ J の代表に、参加できないのであれば、現地なりオンラインなり、日本から代理で参加できるメンバーがいることを伝えるべきではないかと思う。そうでなければ、グループ J は将来 1 名に減らされる可能性があるのではないか。JSAF から Xu Lijia (CHN) と Lee Pilsung (KOR) に Alternate で誰かが参加すべきという提案をしてほしい。

Council2 では Regional Games Committee からの Proposal で、Regional Games をできるだけ五輪予選に使っていく案が承認された。これにより、まもなくスタートする五輪予選会の大陸別予選枠でアジア大会も ILCA に限定にはなるが、五輪予選に認められる可能性が高くなった。

この他に隙間時間を使い、JSAF の ODC 委員会が担当している IHC の WS から JSAF に対する監査を受けた。また、470 国際協会会長の Igor 氏と 2026 年世界選手権や 2032 年の見直し種目に 470 が選ばれている点について話をした。

次回の会議

場所と日程については、12 月 2 日の理事会で決定される。候補にあがっているのは青島（中国）、釜山（韓国）、ラスパルマス（カナリー諸島、スペイン）とのこと。ユース五輪（11 月 5 日～12 日）がセネガルであるため、会議の日程が若干ずれることが検討される。

以上